

# 1. 調査報告概要表

平成 20 年 12 月 5 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0177300043		
法人名	医療法人 仁恵会		
事業所名	グループホーム あさひ		
所在地	北海道芦別市旭町6 0 番地 1 (電 話) 0124-22-5151		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成20年10月28日	評価確定日	平成20年12月5日

## 【情報提供票より】 (20年10月28日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	14 年	12 月	1 日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	16 人	常勤	14人, 非常勤	2 人, 常勤換算

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	1 階建ての ~ 1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,200~27,900 円			
その他の経費(月額)	・光熱費14,000~15,500円 ・暖房費4,200~4,650円 (10月~4月)			
敷 金	有 ( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,200	円	

### (4) 利用者の概要 ( 8 月 3 1 日現在 )

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名	
要介護 1	6 名	要介護 2	9 名			
要介護 3	2 名	要介護 4	1 名			
要介護 5	名		要支援 2	名		
年齢	平均	84.8 歳	最低	73 歳	最高	92 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人仁恵会芦別精療院・医療法人社団はぎわら歯科クリニック
---------	--------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体医療法人仁恵会は昭和31年に創立し常に最良の医療提供と手厚い看護を心がけ理想の環境を目指し、芦別精療院・精神障がい者地域生活援助事業等を展開され、認知症高齢者グループホームの必要性・重要性に着目し平成14年「あさひ」が開設されている。運営者、職員は利用者尊重を重んじ、ケアサービスに事業所理念の「ゆっくり いっしょに楽しく 安らぎのある空間」を確実に浸透させる事に日々努力をしている。暮らしの中では周辺症状の緩和や身体機能低下予防に取り組み効果を上げている。法人がバックアップ機関となり医療面の他、職員研修、各事業所への行事参加など協力体制が確保され、建物が開放感のある平屋建てである事も特徴の一つである。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での課題について、改善計画シートを作成し、改善目標や改善に向けた計画内容、期間を明示して取り組まれている。チームでつくる介護計画については、職員全体での話し合いを重ね、ケアサービスの実際の場面で、密接な連携への取り組みが実施され改善に至っている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者は、評価の意義やねらい、活用方法について理解を深め、自己評価委員会を組織し、評価項目の職員研修を実施し、全職員で自己評価を行っている。また、改善計画シートを活用し、評価一連の過程を通じての質の確保に取り組んでいる。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は18年6月より2ヶ月に一度、及び必要に応じての臨時開催がされている。会議では、地域に開かれた事業所運営を目指し、事業所の状況やサービスの実際、外部評価結果等を報告し、メンバー間でモニタリングされている。休日当番医の周知方や外出支援について、具体的な提案やアドバイスを受けるなど、活発な意見交換が行なわれている。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>事業所内部・外部に苦情相談機関を設け、苦情処理規定に則り対処する体制を整備している。家族へは利用者の状況を個別便りで伝えるなど詳細な報告に努め、家族の訪問や電話の際は、気軽に意見や不満を聞き取れる雰囲気や関係作りに配慮をし、表出された意見等は、発生要因を探ると共に、案件により法人と連携をして運営に反映している。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、事業所・町内会の双方の通信紙を通じて利用者・職員が地域の清掃活動や廃品回収に協力し、必要とされる活動や役割を担い、事業所焼肉行事に住民参加を得るなど交流を図っている。野菜やお米のお裾分けなど自然な関わりも深まっている。また、運営者が地域老人クラブを訪問し、事業所力を活かした地域貢献や連携に努めている。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆっくり いっしょに楽しく 安らぎある生活」の理念を掲げているが、地域密着型サービスの意義や本質を現理念の中で熟慮しながら、住み慣れた地域での安心した暮らしを支えるための事業所理念を構築中である。	○	開設時より、地域住民との交流を重視したサービスに取り組み、母体組織との合同会議では理念について検討会議を開催している。事業所が目指す地域密着型サービスの拠り所とする理念の標榜に期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新人研修やスタッフ研修にて理念の重要性を伝え話し合う機会を作り、ネームプレートに理念を記載して、日々の確認に努めている。理念を掘り下げ、具体的なケアについて意見統一を行ない、実践に繋げ取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、職員、利用者による清掃活動、廃品回収の事業協力等、双方の通信誌を通じて地域で必要とされる活動や役割を担っている。住民から野菜やお米のお裾分けがあるなど、自然な付き合いが深まっている。また、施設長・副施設長が地域老人クラブを訪問し、事業所力を活かした地域貢献、理念の浸透等に努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者は評価の意義やねらい、活用方法について理解を深め、自己評価委員会を組織し、評価項目の職員研修を実施し職員への動機づけを行なうと共に、改善計画シートを活用して、評価一連の過程を通じての質の確保に取り組んでいる。自己評価は全職員が実施し、課題抽出による改善点の職員間共有が図られている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成18年9月より2ヶ月に一度、及び必要に応じて臨時開催されている。会議では事業所の状況、サービスの実際、外部評価等を報告し、メンバー間でのモニタリング、活発な意見交換が行なわれ、休日当番医の周知や外出支援についてなど具体的なアドバイスを受けている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は、市の介護保険課の事業を積極的に受託し、日常の業務で培った気づきや技術を具体的に地域に伝える役割を果たしている。市の広報誌に高齢者向けレシピの発信協力や事業所運営で意見を仰ぐなど市との協働関係を築いている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の日常の暮らし振りやエピソード等を盛り込んだ事業所便りを定期的に発信し、金銭、職員の異動について随時報告を行なっている。個別便りで健康状況等を詳細に伝えており、家族の知りたい事や関係性を深めるための更なる工夫を検討中である。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	内部・外部に苦情相談窓口を設け、苦情処理規定に則り対処する体制を整備している。家族訪問、電話の際に意見や不満を聞き取りやすい雰囲気に配慮し、表出された意見等は会議で発生要因を探ると共に、案件により法人と連携し運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者と職員の馴染みの関係を重視しており、利用者1名に対し職員2名の担当制で、職員交代時におけるダメージを抑えた移行に工夫をしている。運営者は職員の資格取得に際しシフト面での配慮や資格給を導入するなど、労働環境整備に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催の内部研修や役員面接の機会を位置づけ、運営者が職員育成について具体的方針を示している。事業所では、職員個々に応じた段階的な外部研修受講を促し、施設長・医療職員が講師を努める内部研修を開催し、専門職としてのスキルアップや働きながら学びに繋げていくための体制を確保している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他法人の事業者との交流や連携の必要性を認識し、組織ネットワークでの勉強会等の活動や、近隣自治体事業所との職員レベルでの相互訪問活動等、協働しながら質の向上に取り組んでいる。また、地域密着型サービスの下、同市のサテライト居住施設と連携を深める方針を示している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用予定者が居する自宅や病院、福祉施設などへ職員が事前訪問し面談をすると共に、事業所見学、希望や状況により通所で体験利用を実施し、本人の納得を得てサービスを開始するための個別の利用調整を行なっている。利用者が安心感を得られるよう、本人の生活歴や心情に配慮しながらサービスを開始している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は年長の利用者から生活の技や生活文化等を教えてもらう場面を大切にし、共に過ごし寄り添う中で、豊かな感情を体験し、人生観を学び受け入れる姿勢が窺える。共に過ごす中で、利用者が職員に労いの言葉かけがあるなど、お互いを分かち合える関係性が構築されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日常的に一人ひとりの思いや意向について感心を払い、把握に努めている。アセスメントの充実に取り組み、意向の表出が困難な場合なども、顔の表情や発声、目配り等により察知し、本人本位に検討しながら「私の姿と気持ち」シートに示している。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントはセンター方式と事業所オリジナルシートを活用し、検討領域を拡大した多角的な視点で実施され効果を上げている。申し送り連絡ノート、生活記録、日々の生活観察により一人ひとりの状況を把握し、職員間の気づきや意見、本人・家族の意向、医療関係者の助言をカンファレンスで検討し、チームとして介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月の期間を設定し、期間によるモニタリングのほか、実情に応じたケアに繋がるよう現状に即した見直しを実施している。日々の中で観察と記録を徹底し、変化の兆しに予防的に対応する支援にも注視し、その都度、計画の見直しが行なわれている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算の介護保険サービスに自主サービスが組み合わさり、本人、家族の状況に応じた健康管理支援の充実に取り組んでいる。協力医療機関、福祉施設と連携した外出支援や教育機関への事業所資源の提供など柔軟な対応を図っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体医療法人の2週に一度の往診、協力医療歯科の訪問診療や送迎協力を得た外来受診体制を整えている。また、本人、家族の希望により入居前の医療機関での受診が可能である。看護師の定期及び随時の訪問看護、24時間の緊急医療等、バックアップ法人医療機関との連携による支援体制が確立している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所としての医療連携体制を明示し、重度化した場合における対応に係わる方針について、本人、家族へ利用案内時に説明をしている。また、状況変化に応じて関係者間での話し合いや段階的な合意形成を図り、重度化・終末期に際しては、協力医療・福祉機関との連携により適切な移行支援を実施している。	○	早期からの話し合いと関係者間の方針の統一、状況変化に応じた話し合いと段階的な合意は得ている実際を、今後は指針書及び同意書等で明文化し確認手段として、より整備する考えを示しているため、その取り組みの実現に期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の意志と尊厳を重んじ、声かけや対応等、プライバシーや誇りを損ねないように徹底され日々の支援に努めている。契約書の条項で秘密保持、個人情報の提供については目的等明示し、法令を遵守した取り扱いが行なわれている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望や考えを知ることが大切で、一人ひとりに応じた柔軟な支援に努めている。事業所の一日の流れはあるが、生活のリズムに配慮しつつ、散歩や食事にかかる時間等、利用者が本来持っているペースを支え、満足感や安心感、安らかさを生み出している様子が窺える。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、食事に関する一連の作業を通して、利用者の能力に合わせた場面作りや、他者との関係性にも配慮しながら一緒に行っている。畑の食材、嗜好を反映した献立や行事食、外食などを取り入れ、食事に変化をつけて楽しいものになるよう工夫をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は最低週2回、午後の時間帯での基本的設定はあるが、利用者の希望や状態により、その限りではなく、個別に合った支援を実施している。シャワー浴、清拭を含めた一連の入浴において、声かけや対応等に配慮をし、安心して入浴が楽しめる工夫をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や家族、本人からの情報等により、利用者の得意な分野や役割を見出し、気持ちや力を活かした場面作りを行なっている。家事や菜園、習字、体操や歌唱等、有する力を踏まえ、活力を引き出し、楽しみごとや気晴らしに繋がる支援に努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の散歩や買い物、行事外出に留まらず、行き先などが固定しないよう、一人ひとりの希望や状況に応じた個別外出の充実を目指した支援に取り組んでいる。他者との関係性を育める機会では他の福祉施設への訪問外出も行なっている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者一人ひとりの所在確認や職員の見守り、連携に努め、鍵をかけずに安全に過ごせる工夫について検討をしている。玄関は自動ドア式で、夜間は19時～6時で施錠を行ない、内側からの出入りはセンサースイッチで行い、家族から了解を得ている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署や防災技術センター、法人の協力を得て、日中・夜間帯を想定した訓練を、利用者の歩行状態を踏まえ具体的な避難策を検討して実施している。町内会長は元消防職員、施設長、副施設長は消防団員であり、地域住民との協力体制も図られつつある。災害に備えた備品、食料品等を確保している。	○	訓練では具体的な想定の必要性を考慮し実施されており、AED導入について検討に向かわれている。災害は、いつどのような時間帯で発生するか分からず、災害規模の予測も困難極まるが、地域との協力体制が整備される事で連携を図り、より強固な災害対策が講じられる事に期待したい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事、水分摂取量を記録し、職員間で把握を行なっている。法人管理栄養士の協力や医師の指示の下、適切な栄養、水分補給や、咀嚼状態等に応じた食事形態を支援している。一時的に食事が取れない場合など補完食等を提供している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	対面式のキッチンでリビングは広く明るい、一人ひとりがお気に入りの場所で過ごせるよう個別に椅子や小テーブルを置き、和の小上がりも設え季節感を醸し出す装飾がされている。廊下にソファを配置し小空間を確保し、洗面所は2つの高低で設置し使いやすさに配慮している。随所に居心地の良い場所としての工夫や配慮が見られる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の意向や家族の協力を得て、個々に応じた生活しやすい居室作りが支援されている。馴染みの家具や本人が大切にしている品々が持ち込まれており、備え付けのクロゼットには、生活用品が利便よく収納され、プレゼント品や写真なども思い思いに飾り付けされている。		

※  は、重点項目。